

重点取組名	水田農業ビジョンの実現化と環境保全型稲作の推進、高品質麦大豆安定生産による経営の安定及び組織の活性化
普及活動担当	西濃地域農業改良普及センター 窓口担当全指導員
主要な活動地域・対象農業者	西濃管内全域：集落営農に取り組む地域、環境保全型農業（ぎふクリーン農業）に取り組む営農組織等
取組結果・成果 <取組みのねらい>	<p>「水田農業ビジョン」において担い手と位置づけられている農業者及び組織を基に「新たな食料・農業・農村基本計画」における「品目横断的経営安定対策」導入に向けて既存組織への支援並びに集落等への制度周知・組織育成にＪＡ、市町と一体となり取り組んでいる。</p> <p>1) 麦作集団等麦大豆を作付している農業者、組織への対応 対策へ加入することの有利性、必要性について理解を深めるため、経営試算や加入への要件を示して、組織育成の支援を実施した。 実績：全市町において営農（担い手育成）会議を開催 ＪＡ・市町と連携、各集落座談会への参画</p> <p>2) 集落組織のない地域、麦大豆を作付けしていない組織への対応 19年から対策の説明を行い、制度への理解を図った。新たな組織設立の意向を示した地域へは、重点的な支援を実施した。 実績：集落営農組織2組織設立</p> <p>3) 認定農業者への誘導 個別経営体へは経営安定対策を周知するとともに認定農業者制度の説明を行い、経営安定対策加入に向け認定農業者への申請支援を行った。 実績：新規認定農業者30戸（法人4組織除く）</p> <p>4) 法人化支援 組織運営からみて法人化がふさわしい組織を中心に啓蒙を図るとともに、法人化を目指す組織への支援を実施した。 実績：農事組合法人1組織、有限会社2組織設立</p> <p>岐阜県で推進する環境保全型農業である「ぎふクリーン農業表示登録制度（慣行より化学肥料、化学合成農薬を削減した栽培）」への理解を図り、登録のためのこよみ作成や栽培指導を実施した。 水稻での登録支援を図るとともに、次年度に向けて大豆での登録を推進した。 実績：登録面積（水稻） 1,340ha → 5,395ha</p> <p>施肥改善、品種展示ほ等の他各種調査ほ場を設置し、結果を踏まえつつ、米、麦、大豆の高品質安定生産に向けた指導を実施した。施肥改善、品種展示ほについては、継続的な調査を実施した。 小麦の収穫時期、ハツシモ（晩生品種）の収穫時期が諸条件影響により、平年より早まったため、施設の荷受けを計画より前倒しするようＪＡへ働きかけ、品質低下の防止に努めた。 実績 水稻（ハツシモ）1等比率 2.2% → 48.0%(1,2等計98.0%)</p>
連携機関、協議会等	<p>担い手育成に向けた取り組み 営農連絡会議：市町或いは郡単位で開催 各市町担い手育成推進チーム：ＪＡ営農経済センター・支店、各市町、普及センター窓口担当、（県農林事務所担当）で構成</p> <p>環境保全型農業、米麦大豆の品質向上に向けた取り組み 連携：ＪＡ本店・地区営農経済センター、生産者、普及センター</p>
取組の特徴や取組に際しての工夫	<p>集落等での座談会、検討会の対応 組織、地域の特徴に合わせて指導段階を分けている。 a) 制度加入が既に可能であり、将来法人化、b) 麦作集団等では、一元管理と制度加入、c) 集落の担い手としての組織育成 等、</p>

新たに営農組織設立を検討する場合等、簡単な経営試算を行い支援を実施した。また、バラ転など集団化が進んでいない地域では、転作の集団化を推進。

ぎふクリーン農業への対応

海津市では、対応する水稻栽培こよみを作成し、営農組織等作付面積の大きな地域等を中心に登録を推進した。次の段階とし、大豆において地域全体の登録推進を図っている。

不破郡では全コシヒカリを登録し、集落説明会を実施した。

適期収穫の推進

J Aと連携を図り、各地域のほ場における穀粒水分を営農指導員と調査し、荷受け施設の稼働を早めるとともにそのデータを基に各営農組織へ収穫を早めるよう周知した。

【参考】

- ・経営試算表
- ・積算温度情報
- ・現地研修会（小麦、大豆）